

第1回審議会における各委員の発言要旨

参考資料

第2期計画の策定に当たって

○教育の現状等について、全国的に共通する問題であるのか、それともこの宮城県固有の問題であるのか、そのようなところをしっかりと見極め、分析しながら、それぞれに効果的な対策を検討していかなければいけないだろうと思っている。(平川会長)

○先生方が自信喪失をしておられるという事柄、良くないデータばかりに目を留めて、それをどうするのかといういわば問い詰め型の対策ではなくて、元気が出るような指針も併せて、ここを出していくことができればと思っている。(平川会長)

志教育

○若い人たちに本当にしっかりとした形で教育がなされて、人格形成がなされ、教養を身につける、そういう形で将来を担っていただきたいと思っている。(平川会長)

○高校生に対する社会人キャリアセミナーの講師活動を行っていることもあり、現場に反映できるよう検討していきたいと考えている。(川向委員)

○これからの子どもたちにはしなやかに、そして強く生きていって欲しいという思いがある。(丸山委員)

いじめ・不登校への対応

○宮城県の子どもたちはこんなに恵まれた環境の中で学習することができるにも関わらず、いろいろな意味で全国的に取り上げられるような問題も出ている。(橋委員)

○第2期に向かって本県の置かれた状況をどう把握して、どこに重点を置いて対処しなければいけないかということ、県側がどう考えているかということを示していただいた上で、それが果たして我々の感覚と合うのかどうかというところがスタートになるだろうと考える。(川島副会長)

○文科省が出している全体の計画の構築のパターンを踏襲し、本県を取り巻いている何が問題か、全国的なことに加えて、震災復興の途上にあるということが大きなポイントになってくると思う。(川島副会長)

○社会に出たときにどれだけ生きていくか、いかに乗り越えていくか、という人の基本を作るのが教育だと思う。(山田委員)

○志教育というのは今後も宮城県の教育にとって非常に重要なキーワードになっていくだろうと、本当に様々な段階があると思うが、どの段階にも重要なものだろうと考えている。(渡邊委員)

学力向上

○アクティブ・ラーニングは、これからの教育界にとって重要なキーワードだと考えている。(渡邊委員)

伝統・文化の尊重

○宮城県の子どもたちに、郷土を愛する心というものをどうやって培っていったらいいのか、そういう点で郷土史教育というのは非常に大事になってくるのではないかと思っている。(平川会長)

幼児教育

○幼稚園・保育園から小学校へ、小学校から中学校へ、中学校から高等学校へと、この接続の部分についていろいろな課題があるように考えている。(村上委員)

○幼児期からの教育は大切であることから、幼児教育について、しっかり検討したいと考えている。(村山委員)

家庭・地域における教育

○特に基本的な生活習慣、スマホやテレビなどのメディアとの付き合い方、これが子どもたちの将来にすごく大きな影響を与える。(川島副会長)

○家庭教育は全ての教育の原点と言われています。(星委員)

○子どもたちが遊びを知らない、コミュニケーションができないというのをすごく感じている。(山内委員)

協働教育

○学校教育のみでなくどう県民全体で教育を考えていくのか、もっと大きな点から教育を考えていかなければならないのではないかと思う。(木村委員)

○子どもたちに学びの場をつくること、地域で見守っていくこと、つながっていくこと、このようなことに力をいれていきたい。(増田委員)

体力・運動能力の向上

○肥満というのは、健康にとっても、就職試験においても、大変マイナスになるという厳しい現実がある。子どもたちの健全育成のために改善していかなければならない。(松良委員)

心のケア

○震災が子どもたちの教育にどういう影響を与えているのかということは大変気になっていた。(平川会長)

○子どもたちの心のケアに努められるよう検討していきたい。(高橋委員)

教員の指導力及び資質の向上

○子どものために、保護者のために、先生方のために、元気とやる気を起こさせることが私たちの務めだと思っている。(佐藤委員)

○健全育成という視点からは学校以外の部分での教育にも同様に課題があると感じており、我々大人が様々な立場から児童生徒、学生の健全育成のために手を携えていくことが何よりも必要かつ重要だと考えている。(八巻委員)